日本福祉大学 地域連携情報誌

Vol. 8 2021

COC ニュースレター

地域に根ざし、世界を目ざす。ーCenter of Community－

地域連携のさらなる深化へ

千頭地域連携推進機構長

日本福祉大学は、これまで取り組んできた地域連携活動の継続とさらなる発展に諮るため、**「日本福祉大学地域連携ポリシー〔全学〕」**と、各学部の特徴を生かした**「日本福祉大学地域連携ポリシー〔学部〕」**を策定し、学部の研究・教育の特色を生かした地域連携を推進しています。

2021年度は、依然として新型コロナの感染拡大が続く状況でしたが、やれることは何かを常に考え、地域のみなさんにもお力添えをいただきながら、試行錯誤の中でさまざまな実践を地道に積み重ねてきました。

また、地域住民やNPO、企業や行政のみなさまからの温かいご支援は、これから社会を担っていく学生を大いに勇気づけるものでありました。地域での学びとそれを通じた地域への感謝の気持ちは、卒業後に学生が社会人として活躍する場面において、個々の実践に結実していくことでしょう。今後とも地域に根ざす大学として、地域課題と真摯に向き合いながら教育・研究を通した人材養成を進めるとともに、グローバルな社会の諸課題に対応すべく、SDGsに沿って持続可能な社会にむけた価値を地域のみなさまと共有してまいります。

COCデイ「ふつうの・くらしの・しあわせ」をみつめるイチニチ

本学は、全学的に地域志向教育を推進し、持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」養成に取り組んでいます。「COCデイ」は、全学教育センター地域志向科目「知多半島のふくし」の中で実施しており、大学が位置する知多半島地域の課題解決に取り組むゲスト講師を迎え、この地域の現状や課題に対する理解を深めます。2021年度は、健康科学部とともに半田市の「障がい児の学校教育支援」の事例をもとにオンライン講演会を実施し、3キャンパスから471名の学生が参加しました。

■基調講話　できないことがあってもいい、困ることのない社会へ ～インクルーシブ教育のために私たちができること～

半田市障がい者相談支援センター　センター長　　加藤　恵 氏

■シンポジウム「障がい児の学校教育支援について考える」

＜シンポジスト＞

半田市教育委員会	中井　康友 氏
愛知県立ひいらぎ特別支援学校中学部主事	池田　真悟 氏
当事者家族	荒木　尚美 氏
日本福祉大学　健康科学部４年	川角　香南子さん
半田市障がい者相談支援センター	法安　佐栄 氏

＜コメンテーター＞

半田市障がい者相談支援センター　センター長　加藤　恵 氏

＜コーディネータ＞

健康科学部　宮田　美和子 准教授

基調講話では、半田市障がい者相談支援センターの加藤恵センター長より、インクルーシブ教育に必要な合理的配慮とチーム支援について講演いただきました。後半には、ゼミ活動を通して障害当事者家族と関わっている本学学生も含め半田市で課題に関係するゲスト講師の方々から、それぞれの視点で事例報告をいただきました。

ふくしフィールドワーク実践

知多半島の地域課題を通して多学部で学びあう体験学習の場

全学教育センター地域志向科目「ふくしフィールドワーク実践」では、多職種・多分野連携のあり方について地域の各主体から役割や実践について学びます。地域社会での体験学習を重視し、専門の異なる学生がグループで学び合う多職種連携教育Inter Professional Learning(IPL)の方法を採るのが特徴です。3つのクラスを設けて「事前学習、フィールドワーク、事後学習」を集中的に展開して学びを深めることで「地域を創造していく力」を身につけることを目的としています。各クラスとも、知多半島の課題に取り組んでいる関係者の多大なご協力を得て実施することができました。

美浜クラス｜地域特性を考慮した防災の学び　ー防災キャンプをツールとしてー
半田クラス｜半田のまちで１人の暮らしを皆で支える地域包括ケアを学ぶ
東海クラス｜NPOがめざす0歳から100歳の地域包括ケア

地域で活躍する「ふくし・マイスター」

日本福祉大学では、平成26年（2014）年度文部科学省「地（知）の拠点整備推進事業」の採択を契機として、知多半島の関係自治体や課題解決に取り組む地域関係者とともに、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。2021年度は867名（前期卒業生含む）が「ふくし・マイスター」の修了証を授与されました。ここでは、卒業後それぞれの地域とかかわりを持ちながら、地域課題に向き合う卒業生を紹介します。

ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

＝

卒業までに地域志向科目10科目20単位以上修得
＋
毎年度リフレクション（ふりかえり）を実施

医療法人社団友愛会　社会福祉士　堀　友理香さん

介護老人保健施設で、ご利用者様の入退所に関する相談を担当しています。退所後の在宅での生活に向けて、ご本人やご家族のご意向を伺い支援を考えていきます。もともと病院でのMSWを目指していましたが、退院後の生活に関わる支援に携われていることは、本当に貴重な経験になっています。将来、病院勤務になった時に、絶対に役立つと思います。

大学では、演習などで対人援助の基本を学べたことが、現場で人と接する上で役立っていると感じます。それ以外にも、サークルやボランティアで頑張ってきた経験が、今の自分を支えてくれています。

（社会福祉学部社会福祉学科医療福祉コース2019年卒）

ぎふCOC＋事業の取り組み ～持続可能な「地域の未来」と「住民主体の地域づくり」～

日本福祉大学は、岐阜県へのU・Iターン就職促進等による同県域の地方創生を図る文部科学省COC+事業（主催は岐阜大学）に2015（平成27）年度より協力校として参加し、岐阜県や連携大学等と「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」を構成してきました。そして、事業終了後も協定にもとづき取組を進めています。

2022年3月1日、COC＋事業採択校を中心に「全国学生交流会」がオンラインで企画され、本学から国際福祉開発学部に所属する3名の学生が代表として参加しました。

学生らは、千頭研究室がフィールドとする岐阜県中津川市加子母村でのフィールドワークとアクション・リサーチから得た知見を「ローカルSDGｓ」というコンセプトにまとめ、「社会」・「人材育成」・「環境」の三つの柱と14目標59の指標からなる「加子母版ローカルSDGｓ」を地域住民とともに作成しました。交流会では、その経緯について全国の国公私立大学の学生と教職員の前で発表を行いました。

ふくし AWARD 2021

地域に根ざし、世界を目ざす「ふくし」の学びを伝えよう！

全学教育センターは、地域志向学習や国際交流、ICTの活用を通して得られた学びを表現するプレゼンテーションコンテスト「ふくしAWARD」を開催しています。2021年度は、オンラインで開催され合計46件の応募がありました。その結果、英語部門は、国際福祉開発学部3年ACHINTHA WIJESINGHEさんのグループが発表した「Online to In Person Support - Building a new student support system」が大賞に選ばれました。

日本語部門は「クラウドファンディングを使った認知症啓発活動を行った結果からの考察」の発表を行った社会福祉学部3年の佐藤 亜美佳さんが大賞、および8作品の中から1つ選出される学長特別賞を受賞しました。

「地域連携型研究助成制度」

「地域連携型研究助成制度」は、本学教員と地域の関係者がともに取り組む実践的研究を支援する本学独自の研究制度です。2021年度は、以下4件が採択され取り組まれました。

【2021年度 地域連携型研究助成採択一覧】

- 「家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」の効果に関する実証的研究」
  研究代表者：社会福祉学部 准教授 中村強士先生

- 「住民が主体的に地域福祉に関わるための市民性についての研究
  -知多市におけるリーダー調査から-」
  研究代表者：社会福祉学部 助教 菊池遼先生

- 「半田市亀崎町における YouTube チャンネルを活用したまちづくり活動による
  地域活性化と地域活性化に関する効果の検証」
  研究代表者：健康科学部 准教授 坂口大史先生

- 「知多半島の5 市5 町における多文化共生促進の取組の現状を明確化と、
  外国人住民がその情報を得られるための一本化と資料の作成」
  研究代表者：国際福祉開発学部 准教授 ｶｰｽﾃｨ祖父江先生

研究成果報告書については、過去に採択された研究テーマも含め、下記QRコードよりご覧いただけます。

2022年2月には、Zoomを用いたオンラインによる研究成果報告会が行われ、市民研究員の方々にもご参加いただきました。児玉学長より、「採択された研究テーマはいずれも日本及び知多半島5市5町において課題となっているものであり、非常に良い研究をしていただいと思う。」と講評がありました。

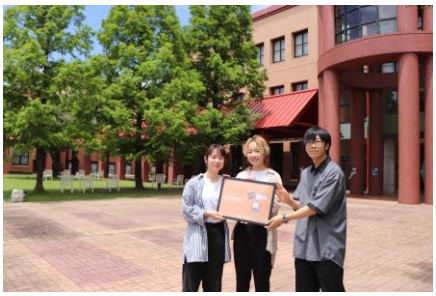
SDGs × 地域連携

SDGsとは国連が定めた持続可能な開発のための国際目標であり、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。本学は「ふくしの総合大学」として、人がしあわせに生きられる社会の実現と支援をめざし、65年以上にわたり教育と研究を続けてきました。ここでは、すべての人のしあわせの実現に向けた本学の取り組みを紹介します。

認知症「理解」の普及と絵本「そばにいるよ」

2020年時点で600万人以上が発症し、65歳以上の約6人に1人が抱えるといわれている認知症。当事者として、支援者として身近なものになりつつある認知症への理解を広める取組を社会福祉学部 斉藤雅茂准教授と学生が２年次のゼミ「認知症啓発プロジェクト」を通して進めてきました。そのなかで生まれた絵本「そばにいるよ」は、小さな子でも認知症への理解を深め、寄り添いの大切さを感じることができる工夫がなされています。

絵本「そばにいるよ」の普及に向け、クラウドファンディングに挑戦し、知多半島内の小学校、児童館123か所への絵本寄贈を行いました。幼少期の子どもたちにも認知症への理解を深めてもらい、みんながやさしくなれる、そんな願いを込めて活動に取り組みました。



"センスオブワンダー"自然のなかで子どもを育む森のようちえん

森のようちえんは、園舎等の建物内ではなく、自然とのふれあいの中で、保育や幼児教育を行なう取り組みです。教育・心理学部の東内 瑠里子准教授は、愛知県美浜町にある農園「季の野の台所」を中心に森のようちえんを展開しています。活動には、東内ゼミ生を中心に農家や自然活動家、ヨガインストラクターなど様々な協力者の方が参加しています。

森のようちえんでは、子どもの主体性を重んじることが重要とされており保育者や教育者も子どもたちと同じ目線で接することが求められます。子ども自身の発見や気づきを「待つ」保育や教育は、従来の手法とは一線を画し、管理も大変なものではありますが、子どもたちそれぞれの成長や身に付けるチカラの幅が大きく、教育者としての喜びも一層大きいものになっています。

知多半島で広がる協働による持続可能なまちづくり

美浜町　美浜キャンパス 防災×減災ウォーキング

本学減災支援教育研究センターでは、2021年10月15日に美浜キャンパスで防災×減災ウォーキングを開催し、地域住民とともにキャンパス内の防災設備や避難ルート確認を行いました。

美浜キャンパスは町の「津波の時の指定緊急避難場所」とされ、大学体育館は地域住民の避難所として開放されます。体育館周辺には美浜町の防災倉庫が設置されており、美浜町防災課とともにその場所や中身の確認を行いました。

防災・減災意識の維持・向上を図るために、今後も地域と連携しながら多くの学生・教職員が参加可能な訓練を継続的に実施していきます。

半田市　SDGs×就活イベント ～サスティナブルな未来予想図～

2022年2月、半田市の雁宿ホール講堂にてSDGsに取り組む企業とSDGsに関心のある学生をつなぐマッチングイベント「就活×SDGs～サスティナブルな未来予想図～」が開催されました。

昨年に続いての開催となったこのイベント。SDGsに取り組む14の企業・自治体と30名を超える学生が参加しました。

企業等担当者と就活生が一緒にSDGsを考えるアイスブレイクをしたり、カフェ形式で、SDGsの取り組みをきっかけにした企業等説明を行うなど、「SDGs×就活」ならではのイベントとなりました。

東海市　とうかいまちづくり大学への参加

第7次東海市総合計画の策定に向けて、若者の代表として大学生などが、東海市の強み・弱みやめざすまちの姿等を話し合い、東海市の新たなまちづくりを考えるため、「とうかいまちづくり大学」が開催されました。

本学からは、社会福祉学部行政専修、国際福祉開発学部、経済学部の学生14名と国際福祉開発学部の千頭聡特任教授がアドバイザーとして参加しました。

最終回（全3回）は、これまでの議論を踏まえ、それぞれが東海市で実施したいアイデアをグループで発表しました。花田市長からは、「これからもまちづくりに関わって自慢できるまちづくりに協力してほしい」とのコメントがあり、学生も「機会があれば積極的に関わっていきたい」と述べていました。

武豊町　武豊町タウンプロモーション事業 ～公式インスタグラム開設～

社会福祉学部行政専修の学生は、武豊町と連携し、武豊町タウンプロモーション事業の一環である、武豊町公式インスタグラム開設に協力しました。

12月のワークショップでは、武豊町若手職員と学生目線でのインスタグラム活用方法や投稿内容について、意見交換を行い、3月には武豊町で行われた、「写真・ライティング講座」において、写真撮影のコツや伝わる文章の書き方、取材方法等について学びました。

武豊町公式インスタグラムは、武豊町在住・在勤、または武豊町に関心のあるメンバーで、町PRチーム“たけとよ日和編集部”を結成し、運営を予定しています。

社会福祉学部行政専修2年生の小塚敬太さんはたけとよ日和編集部員として、「武豊町の魅力をまちの人と関わりながら発見・発信することで自分自身のスキルを向上させ、将来に活かしていきたい」と話してくれました。

Instagram

日本福祉大学 地域連携事業推進本部
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6
TEL　0569-87-2972　　FAX　0569-87-2614（企画政策課）
http://www.n-fukushi.ac.jp/coc

文部科学省 地(知)の拠点